

ちかいに

2009

彼岸号

VOL.125

浄土宗西山深草派宗務所
総本山 誓願寺

◆ 目次 ◆

- 慈光〈第十二回〉
 - 祖法然上人八百回大遠忌にむけて④
 - まんだら絵解き **29**
 - 誓願寺縁起物語〈第十六話〉
 - インド **ドタバタ** 夫婦道中記 ⑱
 - 総本山誓願寺だより
 - 何でも“お寺探偵団 番外編”
- 時宗 総本山 遊行寺



◆ 「総本山誓願寺梵鐘の撞き初め式」 ◆

慈光 12

「慈光」。万物を育成し世に恵みを与える光。大慈悲の光明。阿弥陀さまの分け隔でのない暖かい優しい光。私たちはこの光を頂き、生かさせていただいております。慈光に照らされた私たちの生活を今一度考えてはどうでしょうか？鈴木皓道先生のお寺岡崎市本宿町「慈光院」より拝しました。

【相手を許す心】

昭和二十年一月鹿児島で実際に起きた出来事です。日本陸軍の部隊内で「リンチ」があつたのです。軍隊にいる者が支給される物以外に外で食物を買って食べる事は厳禁でありました。ある新兵の一人が農家より食べ物を買った処を将校に見つかりました。

その夜、練兵場に呼び出されて、ふんどし褌一枚にされ、身動きが出来ぬように後手に縛られ、水をかけられ殴られまた水をかけられたのです。

暖かい鹿児島と雖も、冬のいんど一月、それも夜です。この新兵さんは

「お母さん…。お母さん…。お

母さん…。」と何度も呼びました。それが将校の癪かんに触れ更に殴ったのです。

兵舎に居た同年の新兵がたまらず助けに行こうと立ち上がった時、古兵の一等兵が「止める。お前が行けばお前もあの者と同じ目に遭うぞ。もうあの男は助からぬ死ぬだろう。」

母を呼ぶ声が次第に小声になり、しか而も声と声との間が遠くなっていきました。おそらく、肺炎を起こして…。

その通りでした。親が知ったらどんなに悲しむことでしょうか。どんなにか怒れることでしょうか。戦争中とは言え、共に日本人で、日本の内地でこんな悲惨な

出来事があつたのです。

「怒じよ」これは「相手を許す心」です。

人間の怒りは、相手を傷つけると同時に自分を失う事が多いのです。他人と接していれば、この怒りの心は起きます。「怒」の心も起きます。

ご先徳は

「念佛の信者は悪の心を改変す」とお示し下されました。「改変」とは怒りの心を少し収めてゆとりのある心へ変えると言うことです。

合掌念佛して怒りの心の中にも相手の心を付度そんたく（ちよつと推し量るはか）する「心の幅」を常に持ちたいものです。

布教講習所 所長 鈴木 皓道
慈光院 住職



元祖法然上人八百回忌
大遠忌にむけて④

「法然さまのお言葉」くお伝記の中よりく

「あの阿波介も、仏たすけ給えとおもいて

南無阿弥陀仏と申す。

源空も仏たすけ給えとおもいて

南無阿弥陀仏とこそ申せ。

更に差別なきなり。」

阿波介は、法然上人のお弟子となる前、酒に女に溺れ、悪事の数々を重ねていました。

陰陽師であった阿波介、占いを生業としておりましたが、

ある時より全く当たらなくなり、遊ぶどころかその日暮ら

しも出来なくなりました。せめて死ぬ前に、聞きおよぶ法

然上人を訪ねればと……。法然上人の話しを聞いた阿波介は、

心を改め念仏行者となり、法然上人のお側に仕えるようにな

なつて数ヶ月経ったある日の出来事です。

阿波介は、いつものように

念仏を申しながら廊下の雑巾がけをしておりました。部屋

の中では、法然上人とまじめ

で学問の出来るお弟子さまが、

難しい話しをしているようです。阿波介は庭先に出て、口には念仏を続け、落ち葉を掃き

集めておりますと、お部屋の襖が開き、お二人が見えました。

すると法然上人は、そのお弟子さまに向かつて

「あの阿波介が称える念仏と、私源空が称える念仏では、ど

ちらが勝れているか？」

お弟子さまは、

「法然さまの念仏は大変に尊いのでありますから、同じであるわけがありません。」と言

われました。

「今まで私から何を学んでいたんだ！あの阿波介が仏たす

け給えと願って南無阿弥陀仏

と称え、私源空も仏たすけ給えと願って南無阿弥陀仏と称えていただけである。少しも差は無いのだぞ。」

阿波介は、法然上人のそのお言葉に一層の感銘を受け、

肩を震わせ男泣きに念仏を申しながら掃除を続けたのであり

りました。

今、私たちが使っております「日課念珠」は、阿波介の考

案によるものです。一〇八珠の数珠を二つ持ち、一つは手

にかけ、一つは念仏の数を数える為に使って、数珠の傷みを抑えたのが始まりです。法

然上人もその熱心をたいそうお褒めになりました。

（布教師会）

元 祖 法 然 上 人 御 忌 法 要 (798 回 忌)

平成21年4月23日(木)～25日(土) 於 総本山誓願寺

法然上人の御遺徳を偲び、総本山誓願寺において「御忌法要」が営まれます。
多くの方にご参詣いただきたいと思います。



玄義分「中尊観音菩薩勢至菩薩」(見取図48)

まんだら 絵解き

29

文・まんだら同好会
絵・下 千映子

極楽のようす ⑬
「中央の観音さま・勢至さま」

中央の阿弥陀さまの両脇
には観音さまと勢至さまが
いらつしやいます。

向かって右側に観音さま

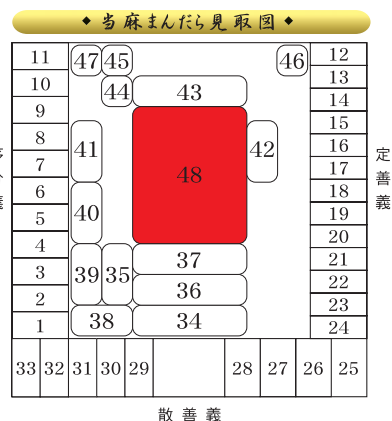
が菩薩さまに囲まれて、一段
大きい蓮華座に腰をかけて
居られます。頭には阿弥陀さ
まを頂き、左手にはつぼみの
蓮華を持ち、右手には開花の
手の印をなされています。

蓮華は人間の五臓の一つ、

心臓に形が似ており、人間の
心を表しています。泥の中に
育つ蓮華は、人間の汚い心
中にも美しい仏性があるこ
とを意味しているのです。

同じように向かつて左側
に菩薩さまたちの真ん中に
ひときわ大きく、蓮華座に腰

をかけておられるのが勢至
さまであります。勢至さま
は頭に宝瓶を載せ、左手は
施無畏、右手は慧刃の印を
しておられます。宝瓶には、
私達を済うための智慧の光
があふれています。大いな
る智慧の光は、勢いよくす
みずみまで至たり、私達を
お済いくださるのです。



誓願寺縁起物語【第十六話】小島 英裕



一遍上人と熊野のお告げ

一遍上人の別名は智心、幼名は松寿丸といいました。愛媛県の河野通広の二男です。幼い時より仏教を慕い、出家の志があったので両親は智心を出家させました。

初めは天台の教学を学びましたが、法然上人の専修念仏の深い教えを信じ、十八歳の時、西山證空上人の弟子・聖達法師の弟子となり、「他力念仏の教えは疑いなく、極楽往生の信仰は正しいもの」と確信しました。慈悲深い一遍上人は、念仏を広く勧めることを願い、諸国を遊行することになりました。まず、和歌山県の熊野那智大社へ向



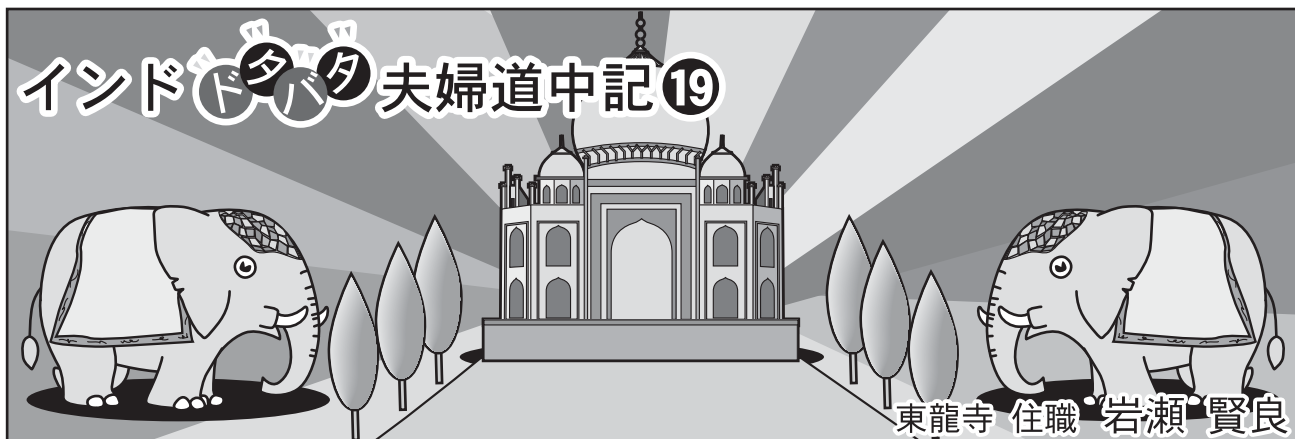
熊野大社でお告げを受ける一遍上人

いました。ここの神さまの本地は阿弥陀さまです。阿弥陀さまの擁護が頂けるよう、熊野に着いた一遍上人は、本宮証誠殿に参詣し、七日七夜一心に念仏して、阿弥陀さまの擁護を頼み、神さまの感応を祈りました。

ためである。上人の念仏弘通の志は深く、私の志と同じであり、私の志を助けるものである。すぐに京都・誓願寺に詣で、有縁無縁を選ばず、広く念仏の札を授け、人々の悲願を満たすように」と偈文を唱えました。

夜も更け一遍上人がまどろんでいると、神殿の扉が開きました。頭巾を掛けた白髪の山伏が現れ高台に移りました。ふと横を見ると、三百人余りの山伏が威儀を正して座り、高台を恭しく拝しています。高台の山伏はやがて一遍上人の前に進み来て、告げました。「私は西方浄土の教主・阿弥陀如来である。この山に現れたのは、悩み苦しむ人々を救い、極楽浄土へ導く

一遍上人はお告げを肝に銘じ、神殿を拝しました。ふと頭を上げて左右を見ると、十二、三歳の子ども百人余りが、手を高く上げ「私たちにも念仏を授け賜え」と異口同音に「南無阿弥陀仏」と称えてどこへともなく消えていきました。この子どもたちは神の一族です。一遍上人の教化を助けるために現れたのです。一遍上人はお告げの通り、急いで京都へ向いました。(つづく)

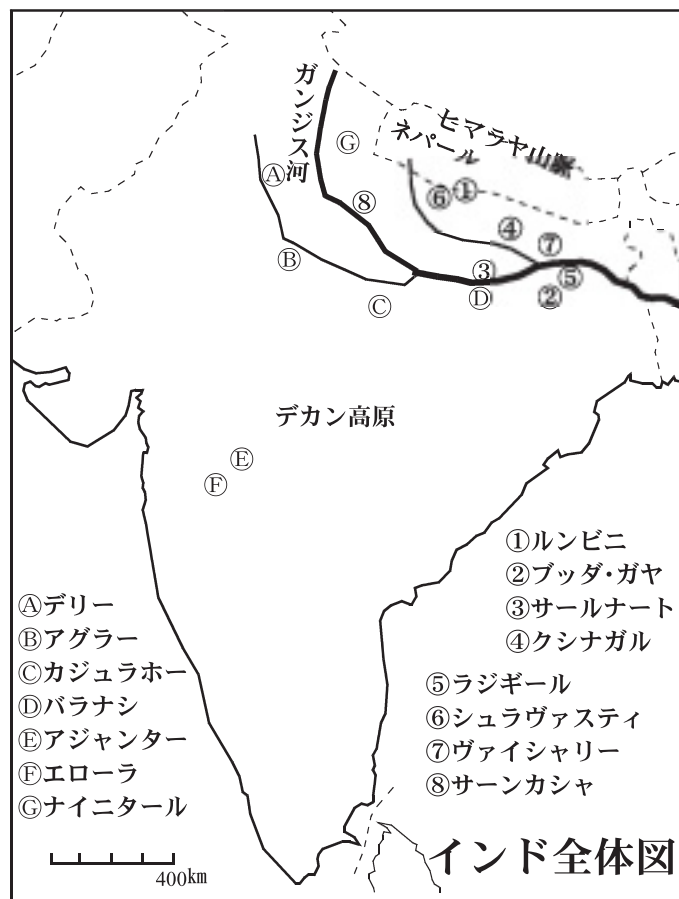


八大仏跡と行程

読者の皆様から多くの要望があり、また僕も気にはなっていたことなので、旅の話中断して、今回の行程を広いインドのどこに行ったのかを大まかに地図で説明したい。

①の首都デリーから始まり、タージ・マハルのある②アグラ、エロティシズム漂うヒンドゥー寺院群の③カジュラホー、これまでもがこの旅行記に書いてきたところである。その後中部の、岩山を掘り、壁画の美しい、仏教だけの石窟寺院群がある④アジャンター、仏教・ヒンドゥー教・ジャイナ教の三宗教で、三十四の石窟寺院群がある⑤エローラに向かった。

そして北部に戻り、ヒンドゥー教徒なら一生の内に一度は行きたいと憧れるガンジス川の聖地⑥バラナシ、そのすぐ近くの、釈尊が覚りを得てから初めて説法した初転法輪の地⑦サルナート(鹿野苑)、覚りの地⑧ブッダ・ガヤ、よく法を説いた竹林精舎や耆闍



帰国間近には、デリーに戻る前に観光地⑥ナイニタールで過ごした後、振り出しに戻った。因みに①ルンビニは釈尊が誕生した地で今はネパール領にある。②ブッダ・ガヤは覚りの地、③サルナート

トは初転法輪の地、④クシナガルは八十年の生涯を終えた無余涅槃の地で、これらが四大仏跡である。あとの⑤ラジギール、⑥シュラヴァステイ、⑦ヴァイシャリー、これらはしばしば説法に訪れた所で、⑧サーンカシャは実際には釈尊が訪れてはいないが、伝説の地と言われアシカ王の建てた石柱があり、これら四ヶ所を足して八大仏跡と言っている。

総本山誓願寺だより

平成二十年十一月二十日、修復工事が完了した鐘樓堂の落慶法要、またこのほど新調された梵鐘ぼんしょう（直径八六^{センチ}、高さ一四〇^{センチ}、重さ五六三^{キログラム}）の撞き初め式が営まれました。

誓願寺にはかつて天文十四年（一五四五）に造られたとされる梵鐘があり、寄進者の一人に千利休の別名「宗易えき」の文字が刻まれていました。この梵鐘は江戸時代の火災の混乱の中で人手に渡り、近年になって真宗大谷派の金沢別院に保管されていることがわかりました。この度、元祖法然上人八〇〇回大遠忌記念事業としてこの梵鐘を復元する運びとなり、また同時に老朽化した鐘樓堂の屋根葺き替え等の工事も進められ、このたび無事に完成、披露されました。

落慶法要では撞き初めとして井ノ口法主が三回鐘をならし、「この鐘の音が京都の町に流れ、仏法、念仏の教えが広がることを願う」と挨拶されました。

この新梵鐘には檀信徒をはじめ、たくさんの方々から御寄進賜りました「銅塔婆」が鑄込まれており、皆様の願いが詰まっております。この場をかりまして御礼申し上げます。

おもな行事予定

三月

●十四日(土)

善導忌

六阿弥陀功德日

●十七日(火)～二十三日(月)
春彼岸

四月

●十五日(水)

六阿弥陀功德日

●二十三日(木)～二十五日(土)
御忌会

五月

●十八日(月)

六阿弥陀功德日

六月

●七日(日)

和泉式部忌

●十九日(金)

六阿弥陀功德日

七月

●十四日(火)

六阿弥陀功德日

八月

●十五日(土)

六阿弥陀功德日

クイズコーナー

【問題】

時宗総本山遊行寺の別時念仏の満行前日の晩に行われる法要とは何でしょう？（3文字）

〇 〇 〇

官製ハガキに答えと、郵便番号、住所、氏名、菩提寺（だんな寺）、感想や質問を必ず書いて送ってください。

今回は時宗総本山、遊行寺さまの「お守り」を五名、本山謹製線香を五名の方に、合計十名に抽選にて差し上げます。ご応募お待ちしております。

【宛先】〒四四四・三五二三

岡崎市藤川町字中町南十五番地
稱名寺内 ちかい編集係

答え 〇〇〇
郵便番号

住所
氏名
菩提寺(だんな寺)
感想・質問等

【締切】

四月三十日
(消印有効)

ちかい 第125号

発行日 平成二十一年三月一日
発行所 浄土宗西山深草派

総本山誓願寺

京都市中京区新京極桜之町四五三番地
電話 (〇七五) 二二一〇九五八
FAX (〇七五) 二二一〇一九
E-mail seiganji@skyblue.ocn.ne.jp

何でお寺探偵団

時宗本山 遊行寺
番外編

今回は、「なんでもお寺探偵団」番外編として、箱根駅伝のコースにもなっている神奈川県藤沢市の時宗総本山遊行寺を訪れました。

① 一遍上人と遊行寺

遊行寺は、鎌倉時代に全国各地で「踊り念仏」や「念仏賦算」によってお念仏を広められた、時宗の開祖、一遍上人の教えを受け継いでいるお寺です。

一遍上人は、生涯を「遊行」という布教の旅の中に送られました。熊野本宮でお告げを受け、「南無阿弥陀仏」決定往生六十万人」と印刷した札を配る「念仏賦算」、そして往生の喜びを体いつばいに表現する「踊り念仏」を行われたことで知られています。寺も庵も持たず、最期の時には持ち物すべてを焼き捨て、遊行聖として見事な往生を遂げられました。

その後、遊行四代目の香海上人が正中二年（一二二五）に藤沢に建立したのが遊行寺です。遊行寺とは通称で、正式な名称は「藤沢山 無量光院 清浄光寺」といいます。

② 時宗と西山深草派

一遍上人は、私たち浄土宗西山深草派と非常に深い所縁があります。

一遍上人のお師匠は、聖達法師と華台上人のお二人であると伝記『一遍聖絵』に記載があります。実はこのお二人とも、西山流祖證空上人のお弟子です。しかも聖達法師は、深草派の記主頭意上人の最初の師匠でもあります。つまり時宗と深草派とは、いわば教えの上の親類関係に当たるのです。

一遍上人ご自身の言葉は、多くは残されていませんが、西山流とは特に近しい教えだと言われています。

③ 遊行寺の「一つ火」

今回ちわい編集部は、遊行寺の法要「一つ火」に参拝させていただきました。一つ火は、毎年開催されている歳末別時念仏会の中で、そのクライマックスとされています。

十一月十八日からの別時念仏（期間を区切って特別に行うお念仏）の満行

▶ 歴代遊行上人の名号



▶ 宗祖一遍上人像



▶ 本堂



前日の二十七日の晩、遊行寺本堂には

続々と檀信徒が集まります。ご本尊を隠すほど無数の歴代上人の名号軸が掛けられ、信者が守る十二の灯火（阿弥陀仏の十二の功德の光の前で、肅々と作法が行われます）。

やがて堂内のすべての灯りが消され、静寂と漆黒があたりを包みます。その時、本堂中央を真っ直ぐに結ぶ白い道の奥と手前で、火打石の一閃（いっせん）によって

二つの灯りが同時に点火されました。その灯りは、堂内の全ての口ウソクへと移され、お念仏の大合唱となります。

白い道は極楽浄土への道。この世のお釈迦さまの光と、極楽の阿弥陀さまの光に導かれて、迷いの暗闇から明るいお念仏の世界へと、私たちが救われる様子がそのまま法要となっています。

咳払いも聞こえない中で、失敗の許されない一度きりの点火の緊張感から、この法要を「一つ火」と呼ぶようにな

ったそうです。厳粛な儀式の後、現在の時宗を導くお上人さまから、念仏札を直接手渡ししていただき、散会となりました。秋から冬へと移りゆく季節の肌寒さに震えながら、西山深草派と所縁の深い時宗の法要を拝見し、お念仏の世界の広がりを実感させていただいた遊行寺への旅でした。

【交通】

藤沢駅（JR東海道本線・小田急江ノ島線・江ノ島電鉄）より徒歩15分

【お問い合わせ】

遊行寺
〒251-0001
神奈川県藤沢市西富1-8-1
TEL (0466) 22-2063 FAX (0466) 23-8243
ホームページ: <http://www.jishu.or.jp/>